

令和3年度
第1回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化処理）に係るアドバイザー委員会
議事要旨

日時：令和3年9月6日（月） 10:00 ～ 11:45

場所：WEB 会議システムにより開催

出席委員（敬称略）

公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
国立環境研究所 資源循環領域 領域長	大迫 政浩
岡山大学学術研究院 環境生命科学学域 教授	川本 克也
国立環境研究所 資源循環領域 副領域長	倉持 秀敏
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	高岡 昌輝
国立環境研究所 資源循環領域 客員研究員	高田 光康
東北大学大学院 環境科学研究科 教授	吉岡 敏明
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	米田 稔

議事要旨

I 本日の議事

安達地方における農林業系廃棄物等処理業務（減容化処理）について

II 検討内容

安達地方における農林業系廃棄物等処理業務（減容化処理）について

日立造船・大林組特定共同企業体（以降、日造・大林 JV と記載）より、業務内容について説明があった。

（1）助燃材の投入について

委員より、ごみ質改善対策として使用している助燃材（PKS（パームヤシの殻））の効果について質問があった。日造・大林 JV より、全体の処理対象物量に対して 10～15 %の PKS を使用して、燃えにくい牛ふん堆肥と混合することで燃焼状態が改善している。これにより処理終了予定である令和4年3月までに十分処理が可能と見込んでいる、との回答があった。

（2）排ガス処理薬剤使用量について

委員より、ごみ 1 t あたりに使用する排ガス処理薬剤の量は低減されており、費用対効果としてよろしいと考えるが、現場の意見はどうかとの質問があった。日造・大林 JV よ

り、処理対象物の多くが除染廃棄物であるため塩素分が少ないことから排ガス処理薬剤使用量が少なくできているものとする、との回答があった。

(3) 施設解体を見込んだ処理について

委員より、令和4年3月の稼働終了に向け、施設を解体するときのことも見込んで処理を行っていくことが望ましいので、放射性物質濃度の低い廃棄物を後半の時期に処理するなどして、炉内の耐火物への影響を低減させるよう工夫するとよい、との助言があった。

以上